

みんなが安全に過ごせる白山市へ

蝶屋小学校 松波 帆奏

皆さんは「見守り隊」を知っていますか。蝶屋小学校には見守り隊という方たちがいます。

見守り隊は私たちの登校や下校が安全になるように見守ってくれている方々です。

その見守り隊の方は朝早くから雨の日も風の日も、雪の日も、暑い日も毎日立ってくれています。それだけでもとても感謝しています。

そして、私たちがあいさつすると、あいさつを返してもらって、朝から元気をたくさんもらえます。今回はそんな見守り隊の話をしたいと思います。

私の通学路では、下校の時は見守り隊の方は一人、もしくはいない時があります。三年生の時、ボタン信号を押して横断歩道を渡ろうとした時、私と友達が渡ったすぐ後に車の信号が赤なのに車が通ったことがあり、とても怖い思いをしました。

私はこの時、もし見守り隊がいたら車は止まっていたらうなと思いました。黄色い目立つ服を着て私たちが横断歩道を渡るとき、道路の真ん中に立って私たちを見守ってくれていることがとてもありがたく思えました。

見守り隊の方がいるおかげでいつも安全に横断歩道を渡ることができています。なので、私も他の生徒にとって、見守り隊のようになりたいと思いました。例えば1～6年生で集団登校している時、6年生は列の一番前と後ろに並んでいます。その時に並ぶだけではなく、身の回りの安全を確認することがまずは、6年生ができることではないかと考えました。この行動は、見守り隊がやっていることに似ていると思います。

また、1年生が横断歩道を渡る時、黄色の旗を持って、見守り隊のように安全に渡れるようにしたいです。

私は低学年の時に6年生の姿を見ていて、「6年生がいれば安心だな」と思うことができたので、自分も下の学年にそう思われる存在になりたいと思いました。

なので、4年生、5年生にも自分たちを見て来年再来年になったら低学年を見守ってほしいなと思います。

4、5年生だけではなく、この作文を通して、白山市全体にも見守り隊の大切さが伝わると良いなと思いました。そうすればみんなが安全に過ごせる白山市になると思います。